



仏法領

ぶつぽうりょう

第79号

発行：真宗大谷派
 念信寺
 〒824-0202
 福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761
 ☎ 0930-42-0329
 Fax 0930-42-0502
 ホームページ
 nenshinji.org

「未来」

都会では、隣人を知らないとい

く。これから先、田舎も都市化して

しまうのだろうか。しかし、未来をつくるのは私達

だ。親を敬い、隣人と挨拶し

お互いを気遣う。しっかりと、引き継いで生きたい。

そなん未来であって欲しい。そんな未来にしよう。

(写真・文 大迫光浩)



「自分の未来・将来って何なの？」

日々一生懸命に生きている我々がチョット立ち止まって、自分の将来はどうなっているのかを考えてみる、あるいは見通しを立てることとは大変難しいと思う。

ほんの数年前のことを想像してみるのも大変難しいことだろうと思う。人生、一寸先は闇だともいう。

どうせ分からぬことを考えるだけ無駄だという意見もある。死ねばただ骨か、ゴミになるばかりさ、と考えるか。確かに肉体的には骨にしかなりようがない。これだと少し寂しいね。

人生は、先の見えない、自分の思い通りにならないことだらけ。だけれども、自分の将来はこうありたいと夢を見ることはできる。人間とは不思議な存在だね！

私の好きな言葉に「難中^{なんちゆう}之難無過斯^{しなんむか}」というのがある。そう、この言葉は、門徒が日々あげる「正信偈」の中の一句です。

この言葉の意味は、難しいことの多い中で、これ以上に難しいことがないものということ。難題中の難題ということ。

では、親鸞聖人は何が難題かと言っているのか。この句の前にある邪見や驕慢な心持に捉われた我々が、阿弥陀様の本願を信じることは難題中の難題と言っているのです。阿弥陀様の本願とは、生きとし生けるすべての人間を、死後は必ずや絶対的に極楽浄土に生まれさせるという願いのこと。人々は、本当かいな？ と疑問に思う。

(阿部正紀・記)